

「わが図書館ならではの本！！」
～ 南薩支部 指宿市立図書館～
「思い出の多羅～指宿海軍航空基地のはなし～」

図書館に勤務して、まだ2、3年の頃、一人の男性から、「今、国民休暇村の前を通ったら指宿海軍航空基地慰霊碑と書いた看板を見かけました。図書館には何か海軍航空基地についての資料はありませんか。」と尋ねられました。が、男性が満足いく資料ではない様子でした。資料の少なさを詫び、基地の存在すら知らなかった話をすると、「図書館は、まちの歴史を収集・整理し、その情報を知りたい市民に届けられる場所でなくてはね。」と言われました。



それから関連団体と連携し、少しずつ資料収集に努めました。戦後70年の際、集めた資料で企画展を開催しました。好評でしたが、会場確保の難しさから、ひと月ほどで企画展を終え、その資料は郷土資料室の片隅で眠ることになりました。



戦後80年を前にして、再度、特別企画展をするか悩みました。しかし、また、ひと月してお蔵入りするなら同じだと思い、オープンスペースの壁際なら常設展示ができないかと話し合い、令和6年12月に常設展示を開始しました。それでも、その展示を見に来てくださる市民は僅かでした。それなら、こちらから見せる方法はなんだろうと考えて作成したのが、この紙芝居でした。

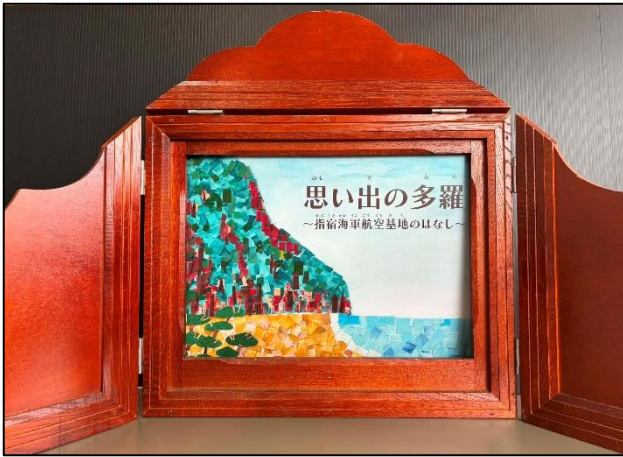
紙芝居なら子どもが子どもに読み、平和を継承していくことも可能です。紙芝居には大衆性もあり、子どもから大人まで楽しめ、頒布しやすいと考えました。子どもたちに自分事として考えてもらえるように、大人だけで作るのではなく子どもたちと共に作り、13ページすべてに担当をつけ、切り絵紙芝居にしました。

世界中の人に見ていただけるように、現在、Web上でも見られるようにしました。

主人公の女の子は、多羅から強制移住させられたヒサエさんの実話を元に作りました。女学生の体験は指宿図書館で40年間司書として勤務された大吉さんの実話を元にしました（現在もご健在）。



戦争の惨禍が二度と起こることがないように、平和な世の中でありますように、との祈りをこめて。



書誌詳細について

「思い出の多羅～指宿海軍航空基地のはなし～」

著者：指宿市立指宿図書館／脚本

指宿の子どもたち／絵

ことう のぞみ／絵の指導・編集

出版者：指宿市 出版年月日：2025年12月